Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

乳幼児の生活環境の中の動物達（第６報）
―内外の保育現場における描画指導の調査―

喜田　敬・窪　龍子・中村美津子
（聖学院大学）　（和泉短期大学）

１．研究目的

本論は幼児の描画活動に、保育者は如何なる影響を及ぼしうるかを、幼児の絵と保育者の描画指導の傾向、絵の好み・評価の傾向等を比較し、その直接的・間接的影響の可能性について検証するものである。

２．調査方法

(1)　調査対象者（本文では園名を地名で略称）

日米英仏４ヵ国、７園における保育者２４名。（調査対象の幼稚園については第５報参照）

(2)　調査内容

第５報における調査３の結果を用いて、次の２点を検証する。①描画指導の傾向　②日本の４～５歳児の描いた動物画、５作品（図１）の中から「好きな絵」「良い絵」を選出した結果とその理由。

(3)　調査時期；1994年 4月～10月

３．結果

(1) 描画指導の傾向

保育者が描画指導をしている場合を表 6-1に示した。東京園とロス第２園は、ほぼ同じ指導傾向にあり、アトランタ日本園を含めたこの３園では、「a.手本による指導」を行っていない。反対にロス第１園は、「a.手本による指導」のみ行っている。

ダーラム園では、保育者全員が「c.観察画重視」の傾向にあり、同率２位は「a.描き方の指導」「b.手本による指導」「e.描画に集中させる」、最下位は「d.対話重視」となった。

バーミンガム園は、同率１位が「a.描き方の指導」「b.手本による指導」であり、同じく最下位は「d.対話重視」であったが、「その他」を選んだ保育者は「描き方を指導しながら対話する」と答えた。

リヨン園（書込み説明が多い）では、１位が「a.描き方の指導」と「e.描画に集中させる」に分かれた。a.とe.の重複回答者は、e.の理由として「時々観察する」ことをあげた。a.については「第２段階では印象のまま描かせる」とあり、「d.対話重視」を「発見の第１段階」と理由付けした。「b.手本による指導」については、b.の回答者全員が、手本は「画家の絵」と記し「とりわけコンテンポラリーな作（ピカソ、マチス）」との書込みもあった。そして最下位は「c.観察画重視」であった。絵画専門指導者による指導はロス第２園だけで行われており、「c.観察画重視」２名(50 %)、「e.描画に集中させる」１名(25 %)「不明」１名(25 %)という結果で、観察と集中を基本としていると考えられる。（表の掲載は省略）

(2) 保育者の絵の好み

保育者が選んだ「好きな絵」は表 6-2、「良い絵」は表 6-3に示す結果を得た。

４．考察

(1) 保育者の直接的影響の可能性

園児の絵と保育者の指導方法とを比較検討した。

①東京園；保育者各自の描画指導法には異なりがあるが、傾向としては「対話重視型」と言えよう。「a.描き方の指導」は、押付けというよりケアーと考えられる。園児の絵は各自さまざまであり、園児間の模倣は見られない。ここには自分の絵を描く環境があると推測される。

②アトランタ日本園（回答者１名）；指導法は、「対話重視型」である。園児の絵は全体にカラフルで、女児は全員がピンクを使用し（単一色なし）、男児には寒色使用が目立つ。女児の表現には、類似点が多く見られるが、これは保育者からの影響というより、園児間の横のつながりの深さと考えられる。

③ロス第１園（回答者１名）；「b.手本による指導」と保育者は答えたが、園児の絵で目立つ点は、余白を残さず塗り潰したものが多いことである。その中には乱画や人の指ほど小さなウサギの絵もあった。全体的には、お話し画風なものが多く、男女共に空は青、地は緑と寒色使いが多い。

④ロス第２園；東京園とほぼ同じ指導傾向にあり、園児の絵も各自さまざまであるが、同園と東京園の園児の絵に類似するものはない。同園とアトランタ日本園との間には、やや類似するものが見られた。同園では専門家の指導も受けているが、園児の絵の中には観察画と思えるものは皆無であった。

⑤ダーラム園；「c.観察画を重視する」園であったが、園児の絵は全体に小さい。これは各年齢に共通し、年長組の絵は写実化すると共にカタログ化している。擬人化した動物を描いたものは皆無であり、小さな動物達で空間はうめられ、背景その他は全くない。色彩は無彩色、中間色が多く鮮かさに欠ける。

⑥バーミンガム園；「a.描き方を指導する」園であったが、園児の絵には表現法に幅がなく、皆類似している。擬人化した動物を描いた園児はダーラム園と同じく皆無であり、また動物以外のものを描いた園児も僅かであった。色彩も黒、茶の傾向が強い。

⑦リヨン園；園児の個々の成長に応じ、きめ細かい指導をする園であった。同園が第１段階と呼んだ年少組の中には線画き遊びの絵、年中組の中には指絵が含まれており、心の解放重視の傾向が伺われる。年中組以上の絵を見ると、ピカソ、マチス等の作品を示しながらの指導も、目的はそれらの摸写ではなく、感性への刺激、表現の多様さの発見にあるように思える。年少組の絵は自己表出的、年長組の絵は自己表現的であるが、各年齢に共通する点は、紙面を充分に活用している点である。

(2) 保育者の間接的影響の可能性

園児の絵と保育者の絵の好み・評価とを比較検討。

①東京園；保育者の指導法には異なりがあるが、絵の好みには一つの傾向が見られる。図 1-2「大胆なもの」を好み、図 1-4「自己表出的なもの」を良しとする。園児の絵には僅かにその影響が感じられる。図 1-3を選ばなかったのは「概念画的なもの」への拒否的反応であろう。

②アトランタ日本園；東京園と同じ好みである。ただし保育者は自分の好みを押付けず、自由に描かせるよう留意していると言える。同園の園児の絵は、大胆、自己表出というより、概念画傾向が伺えるからである。

③ロス第１園；保育者は、好み・評価ともに無回答であった。

④ロス第２園；保育者の好みはそれぞれだが、傾向と

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

しては、好きなのは図 1-1「写実」、良いのは図 1-3である。好みと園児の絵とは結びつかないが、良しとするものと共通し、間接的影響が多少伺われる。

⑤ダーラム園；保育者の好み・評価はさまざまである。しかし大多数は図 1-1を選んでおり、これは園児の絵に大きな影響を与えている。

⑥バーミンガム園；保育者が好きなのは図 1-3であり、良いのは図 1-1であった。ここでの結果は、園児の絵に影響を与えている様子は見られなかった。

⑦リヨン園；保育者が好きなのは図 1-3で「楽しい」という理由が多数を占めた。良いのは図 1-2の「大胆さ」であった。色彩、空間構成、表現力を重視する同園の保育者の影響力は大きい。同園では「指導法」「好み」「園児の絵」の間に一つの関連性を見ることができる。保育者の絵の好みは間接的影響というより、信念となって直接的影響を及ぼしているといえよう。

以上述べてきたことから、保育者の幼児の描画活動に対する姿勢は、その活動に直接・間接を問わず影響を及ぼすと考えられる。

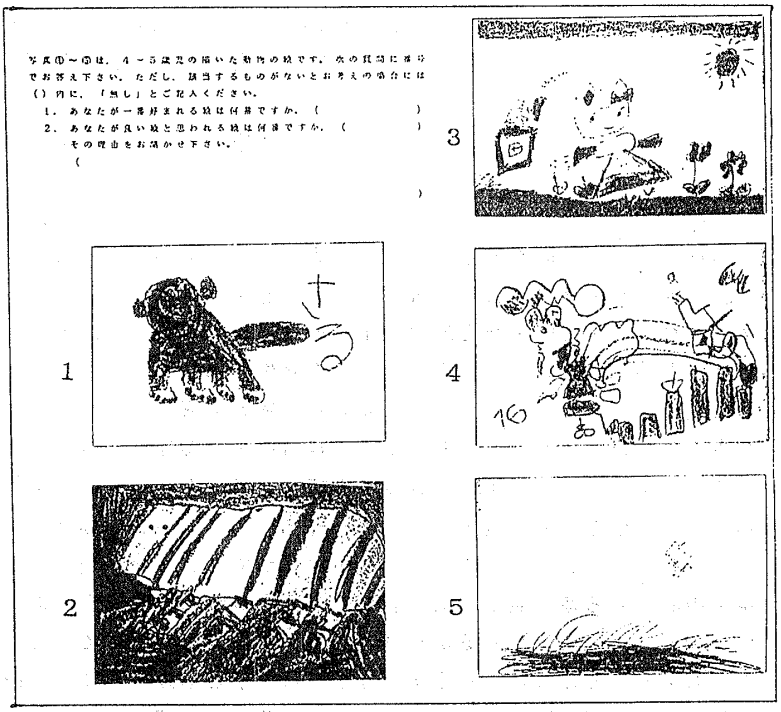

図１　子どもの動物画（調査３）

表６－１　保育者による絵画指導の方法

N(%)

地　域	東　京	アト日本	ロス第１	ロス第２	ダーラム	バーミン	リヨン	計
回答者数	4	1	1	4	5	3	6	24
描き方の指導	1(25.0)	0	0	1(25.0)	3(60.0)	2(66.6)	4(66.6)	11(45.8)
手本による指導	0	0	1(100.0)	0	3(60.0)	2(66.6)	3(50.0)	9(37.5)
観察画重視	1(25.0)	0	0	1(25.0)	5(100.0)	1(33.3)	1(16.7)	9(37.5)
対話重視	1(25.0)	1(100.0)	0	1(25.0)	2(50.0)	0	2(33.3)	6(25.0)
描画に集中させる	1(25.0)	0	0	2(50.0)	3(60.0)	1(33.3)	4(66.6)	11(45.8)
描かせない	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1(33.3)	0	1(4.1)
NA	1(25.0)	0	0	0	0	1(33.3)	0	2(8.3)

注；重複回答あり。アト日本はアトランタ日本、バーミンはバーミンガムの略。

表６－２　保育者が選んだ「好きな絵」

N(%)

地　域	東　京	アト日本	ロス第１	ロス第２	ダーラム	バーミン	リヨン	計
回答者数	4	1	1	4	5	3	6	24
図１－１	1(25.0)	0	0	2(50.0)	4(80.0)	0	1(16.7)	8(33.3)
１－２	2(50.0)	1(100.0)	0	1(25.0)	1(20.0)	0	0	4(16.6)
１－３	0	0	0	0	2(40.0)	2(66.6)	4(66.7)	8(33.3)
１－４	0	0	0	1(25.0)	1(20.0)	0	0	2(8.3)
１－５	0	0	0	0	1(20.0)	0	0	1(4.1)
NA	1(25.0)	0	1(100.0)	0	0	1(33.3)	1(16.7)	4(16.6)

注；表６－１に同じ

表６－３　保育者が選んだ「良い絵」

N(%)

地　域	東　京	アト日本	ロス第１	ロス第２	ダーラム	バーミン	リヨン	計
回答者数	4	1	1	4	5	3	6	24
図１－１	0	0	0	1(25.0)	4(80.0)	2(66.6)	1(16.7)	8(33.3)
１－２	2(50.0)	0	0	1(25.0)	2(40.0)	0	3(50.0)	8(33.3)
１－３	0	0	0	2(50.0)	2(40.0)	0	1(16.7)	5(20.8)
１－４	3(75.0)	1(100.0)	0	0	0	0	0	5(20.8)
１－５	0	0	0	0	0	0	0	1(4.1)
NA	1(25.0)	0	1(100.0)	0	0	1(33.3)	1(16.7)	4(16.6)

注；表６－１に同じ

NII-Electronic Library Service